

アイリス Letter

保護者の皆様へ



2024年7月19日発行
第2号
広島女学院中学高等学校

<聖書のことば>

恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。
たじろぐな、わたしはあなたの神。
勢いを与えてあなたを助け
わたしの救いの右の手であなたを支える。

イザヤ書 41 章 10 節

1学期の終業のときを迎えました。体育大会には、たくさんの保護者の方に参観していただき、ありがとうございました。6月の平和を祈る週では、中学、高校とも生徒たちが工夫をこらした昼の集いが行われ、特別礼拝では講師の小倉桂子先生から人を思いやる力、想像力が大切であるとメッセージをいただきました。普段の授業も1学期を通して、多くのことを学び、大きく成長していることと思います。また、放課後の課外活動での出会いは、新しい世界を見ることにつながったかもしれません。生徒一人ひとり、各ご家庭では毎日を共にするのですから、目に見えるような成長は感じられないかも知れません。しかし、その歩みは尊いもので、かけがえのないものです。1学期のがんばりをどうぞ褒めてあげてください。

さて、7月の高校の生徒礼拝で、ある生徒が「自分を受け入れる」ことの大切さについて話してくれました。「他人と比較して自分を認められない時もあった。しかし、自分を受け入れることで他の人を受け入れることができ、多様な世界とつながっていける」と力強く語ってくれました。この自分を受け入れることこそ、人生の中で最も大切で、最も難しい課題です。それは、うまくいかないことで、自分を悲観することとは違います。周りの人ががんばりを認め、褒めてくれることで安心することとも違います。自分の大切さ、自分の尊さを知るための一歩をふみだすことであり、自らの将来を切り拓いていく原動力となるものです。

7月20日から8月28日まで、40日間の夏休みです。この40日はとても貴重なものです。部活動や補習などで学校に行く日もありますが、やはりたくさんの自由が与えられます。この時が、ご家族の皆様とともに、安全に健やかであり、そして、自分を受け入れる時となりますよう祈ります。

(校長)



生徒支援部より

夏休みが始まります。自由になる時間が増えますが、自分の「生活」をマネジメントする力は、「学び」をマネジメントする力であり、これからの「自分の将来」を切り拓いていく力にも繋がります。別に配布している「夏休みの注意事項」のプリントをよく読んで、生活リズムを整えて実りある夏休みにして下さい。ご家庭でも生活面の指導を継続的に宜しくお願いします。

登校中のマナーについても、これまで通り、広島女学院の生徒として責任と自覚と持った行動をしてください。また、特別な理由が無い限り公共交通機関や自転車、徒歩で登下校をしてください。車で送迎では、近隣のマンション等に迷惑がかかります。

また、SNSを中心としたスマホやパソコンの利用については自分でコントロールしましょう。文明の利器に依存し、「使う側」ではなく「使われる側」になってしまっていて、生活リズムが大きく乱れる可能性が高いのもこの夏休みです。スマホ・ネット依存は、勉強時間の減少（「量」の面）に留まらず、集中して勉強する習慣そのもの（「質」の面）にも影響します。

スマホやSNSの理解と指導については、7月19日（金）に、生徒対象の講演会をおこなっています。スクールガードIANによる講演ですが、生徒を取り巻くネット文化と、注意すべき点について講演いただいています。ぜひ、ご家庭でもどのような講演だったのかを話題にいただければと思います。



また、父親母親教室の一環として、スクールガードIAN制作の、「ネットとの付き合い方に関する講演」動画も配信します。本校の保護者のために制作されたオリジナル動画で、毎年更新されています。さくら連絡網にてアドレス配信致しますので、是非ともアクセスし視聴下さい（視聴可能期間は8月末までです）。現代では、ネットとどう付き合っていくのが、日々の生活に大きな影響を与える時代となっており、そのためにはご家庭の指導が必要不可欠です。引き続き、ご家庭でもご理解とご指導を宜しくお願い致します。

全力で遊び、全力で学ぶ、そんな夏にしてもらいたいと願っております。

（生徒支援部）

体育大会

6月11日（火）にグリーンアリーナで体育大会が行われました。

競技は中学生の100m走から始まり、学年種目、五色対抗種目など盛りだくさんです。学年種目では、クラスみんなが一丸となり勝利を目指します。精いっぱい頑張る姿、お互い応援する姿、勝って喜ぶ姿、負けて悔しがる姿など、日頃見られない生徒の姿を見ることができました。高1は、これまで体育大会でやったことなかった、学年全員でのダンスにチャレンジしました。200人近くの生徒が一斉に踊るため、スペースの関係で事前に全クラス揃っての練習をすることはできません。そんな中でしたが、はじめてのチャレンジにもかかわらず、迫力のある見事なダンスを見せてくれました。高3は「むかで競走」でした。担任の先生も含め、クラスみんなで声を掛け合い、息をそろえて進んでいました。高校生活最後の体育大会を楽しんでいたようです。





やはり体育大会の花形はリレーです。クラス対抗リレーに五色対抗リレーと大盛り上がりでした。手に汗握る展開に、歓声も一際大きかったように感じます。

今年度で3回目となった、グリーンアリーナでの体育大会でしたが、準備から運営まで多くの生徒の活躍で、非常にスムーズな運営ができました。また、平日にもかかわらず多くの保護者の方に応援に来ていただき、最後まで大盛り上がりの体育大会でした。

学年を超え、応援する姿、協力する姿、臨機応変にサポートし合う姿、決して日頃の学校生活では見ることのできない姿です。こういった行事を通じて得られるものは非常に多いです。この経験を、日ごろの学校生活の中にも活かしてもらいたいです。

皆様のおかげで今年度の体育大会を無事終えることができました。本当にありがとうございました。

(体育科)

平和を祈る週（6/17～6/22）

6月22日（土）の特別礼拝では、ヒロシマ通訳者グループ代表の小倉桂子先生をお迎えしました。小倉先生は、8歳のときに爆心地から2.4キロの牛田町で被爆されました。その後、広島女学院中学・高等学校に入学し、在校中には5人委員を務め、YWCA部に所属されていました。また高校在学中に広島牛田教会で洗礼を受けておられます。1981年に平和のためのヒロシマ通訳者グループを設立され、海外からの作家、メディア、平和運動家などの通訳として多くの作品に関わりました。また、ニュルンベルクの反核模擬法廷、ニューヨークの世界各被害者会議などで英語による被爆体験の証言を行われました。2023年5月19日のG7広島サミットでは、広島平和記念資料館を訪れた各国の首脳たちに自らの被爆体験を証言されました。さらに5月21日、ウクライナのゼレンスキー大統領が資料館を視察した際にも証言されました。2024年5月11日、アメリカ・アイダホ大学の「名誉人文学博士号」を授与され、2024年8月6日にはNHKのドキュメンタリー番組の放送が予定されています。



礼拝では、まず母校で語ることの喜びについて、お話してくださいました。戦時下を生きてこられた小倉先生は、こうしてみんなで制服を着て集うことが出来ていることに「平和を感じる」と仰ってくださいました。一方で、今生きておられる被爆者の方たちが抱える「死ぬのが怖い」という思いについても語ってくださいました。被爆して先に亡くなった方たちに「核兵器なくなった？」と尋ねられた時、どう答えればよいのか、戦いの絶えないこの世界の現状をどう伝えたらよいのかと葛藤されているそうです。だからこそ、小倉先生は次の世代を担う私たちに、被爆体験を語り、核兵器の恐ろしさを伝えてくださっているそうです。小倉先生は「バトンを渡しました」と力強く締めくくってくださいさり、私たちは広島に生きる者として、そのバトンを受け継いでいきたいと思われました。

週間中の中学では、上空通路を舞台に各クラスで作成した平和へのメッセージを展示した「女学院平和ロード」を作りました。また、朝の登校時に各学年の礼拝委員の生徒が先生と共に、校門の前で挨拶を行いました。昨年に続く校門での挨拶を通して、お互いの笑顔が溢れる光景が多く見られました。なお、中学では様々なお昼の集いが行われました。



月曜日には「行列のできない女学院相談所」企画がゲーンズホール前で行われ、大勢の生徒が先生方に相談しに来てくれて、行列ができてしまいました。火曜日には「先生にインタビュー」が、水曜日には「女学院なんでも放送局」が放送室にて行われました。木曜日には教育実習生の先生と共に制作した「YOUは何しに日本へ」という動画が、ゲーンズホールにて上映されました。海外の国籍の女学院の先生方や広島県以外の他県出身の先生方へのインタビューが主な内容でした。金曜日には、「沢知恵ドキュメンタリー：



『戦いたい』がゲーンズホールにて上映されました。生涯をかけてハンセン病問題に携わっている沢さんの「志」を通じて、聖書から示されている「隣人愛」とは何かについて遭遇する貴重な一時でした。



『戦いたい』がゲーンズホールにて上映されました。生涯をかけてハンセン病問題に携わっている沢さんの「志」を通じて、聖書から示されている「隣人愛」とは何かについて遭遇する貴重な一時でした。

高校の昼の集いでは、3年生が3日間にわたり、昨年の沖縄修学旅行についてプレゼンを行いました。各コース、自分の学んだことや感じたことを、修学旅行を控える高2生・高1生に伝えてくれました。2年生宗教委員企画としては、「聖☆おにいさんをみんなで見よう！」



を実施しました。宗教が対立することもあるこの世界ですが、ブッダとイエスが「平和」に暮らすという作品で、大講義室は大きな笑いに包まれました。1年の宗教委員企画では「先生インタビュー」を行いました。音楽科の長谷川先生、国語科の寺本先生にインタビューをうけていただき、先生の平和観や聖書に登場する人物の中で好きな人や共感できないと感じる人、「平和」というテーマで一句という難題にも答えていただきました。



(宗教教育委員会)

グローバル研究・成果発表会（高校）

6月15日（土）3・4限に、グローバル研究・成果発表会を行いました。韓国語のスピーチコンテスト優秀賞受賞者のスピーチと、海外研修・留学に参加した皆さんからの報告を行いました。会場の生徒の皆さんからもたくさんの質問が出て、とても活気のある発表会となりました。

プログラムは以下の通りです。

◆韓国語スピーチの部

タイトル：『귀여워!!서 (かわいい!!から)』 3-B S. R

◆海外研修・留学報告の部

1. 韓国研修（高2）

2. マウントユニオン大学研修（高1、高2）
3. GIハワイ研修（高3 GI選択生）
4. ニュージーランドタム留学（高1）
5. カンボジア研修事後学習（高2）



開会の言葉の中で、司会のコール先生が「世界は壁のない教室」とおっしゃいました。この発表会が、みなさんが世界に一步踏み出すきっかけとなり、様々な出会いや学びに繋がることを願っています。

(グローバル教育推進部)

高校文化講演会

6月18日(火)、高校生対象の文化講演会が開催されました。講師は、曹洞宗の僧侶である藤田一照(ふじたいっしょう)先生。講演のタイトルは「Live Out Your Unique Self ～自分独自の人生を創造する～」でした。「無意識」を「意識」することで、身心(=自己)にすでに備わっている自己調整能力や自己治癒能力を発見し、信頼し、発揮し、育てていくことの重要性を説いてくださいました。

一照先生は、灘高校を卒業後、東京大学教育学部教育心理学科を経て、大学院で発達心理学を専攻。院生時代に坐禅に出会い、28歳で博士課程を中退して禅道場に入山、29歳で得度するといった、特異な経歴の持ち主です。どのような経緯でこの道を歩んできたのか、ご家族の写真を交えながらの講演で、あっという間に90分が過ぎていきました。



一照先生は、禅との出会いによって「人生は自分に何をさせたがっているのか？」という視点から、「私を通して生きていたいと思っている人生」に対して素直に耳を傾けるようになったとおっしゃっていました。これは、キリスト教における「ミッション(使命)」に通じる生き方です。私たちが自らの使命を生き、「自分独自の人生を創造する」。宗教の枠を超えた普遍的な人生観に触れ、改めて自らの生き方を考える契機となる講演会でした。

(国語科主任)

教育実習について

卒業生12名が6月1日から2～4週間、教育実習を行いました。礼拝や教科の授業、HRの活動だけでなく、実習期間中に体育大会もあり、実習生も楽しい中でしっかり役割を果たしていました。

限られた時間の中で、実習生たちは教師として生徒に接すること、教えることや学びの姿勢を引き出すことの難しさ、授業準備の大変さに気付くことができたと思います。彼女たちの今後の活躍を期待します。

(教育実習係)

8月6日平和記念礼拝のご案内

8月6日（水）午後1時30分よりゲーンズホールで、女学院の生徒・教職員350余名を含む原爆犠牲者をおぼえ、平和を祈る「8・6平和記念礼拝」が行われます。

講師の小方澄子さんは、同窓生で、広島女学院同窓会による証言集のほか生徒や学生に被爆証言の奉仕を行われています。

中1、中3、高2で在広の生徒の皆さんは、礼拝に出席して下さい。

他学年や礼拝に出席できない人たちも、午前8時15分にはそれぞれの場でこの日を覚えて、黙祷をささげましょう。

なお、当日はゲーンズホールのみ制靴可です（校舎に入る用事のある人は校内靴持参）。1時20分には中1・中3はホールのいつもの席、高2は2階席に着席し、担任の先生よりプログラムを受け取って下さい（聖書・讃美歌は印刷しているので不要）。その他の学年で、礼拝に参加する場合は、後ろの空席か補助いすに座って下さい。

（宗教教育委員会）



保健室だより（2）

暑い夏がやってまいりました。夏休みは子どもたちがリフレッシュする大切な時期です。勉強や部活動で忙しく過ごす一方で、新たな場所を訪れたり、友人との交流を楽しむ機会も増えるでしょう。この解放感が高まる中で、思わぬリスクやトラブルに巻き込まれる可能性もあります。特に保健室では、夏休み明けにSNSや性に関する悩みを打ち明ける子どもたちがいます。安全と健康を守るためにも、保護者の方々のご理解とサポートをお願いします。

健康診断結果のお知らせをお渡ししています。ご確認いただき、必要に応じて治療を進めていただければと思います。お子さまの心身の健康などについて気になることがありましたら、保健室までご相談ください。



（保健室）

心の健康（2）

夏は暑いです。太陽がカーッと照りつけて汗がダラダラ流れて、それで元気になる時とあまりの暑さにグターツとなり弱ってしまう時があります。暑さは内在する力をパワーアップしたり、心身を弱らせたりします。

暑さをストレスとなる悪いものと決めつけしないで、暑さにどう対応していくか親子で工夫するのも夏休みの課題です。

夏休みは家庭で生活する時間が長いので、親子の関係が見えてきます。この機会に子どもの成長に役立つ親のあり方を再検討してみましょ。親として、

過保護？ 過干渉？ 放任？ 溺愛？ 厳格？ 服従的？ 圧力的？
それぞれに良い面と悪い面があります。要はバランスがとれているかどうかの問題です。40日間の夏休みに親子の間に新しい何かが生まれることを楽しみにしています。

夏休み中のカウンセリングルームは木曜日に開室します。希望される方は、お申し込みください。

（カウンセラー）



今月の聖句

「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

ルカによる福音書 10 章 27～28 節

今年の 1 学期を振り返ってみると、ある先生の朝の礼拝でのユニークなお話がきっかけとなり、中・高ともにホットになったキーワードがありました。それは「隣人愛」という言葉です。「隣人愛」とは、イエス・キリストによって語られた新たな掟（おきて）であって、上記の聖書箇所にも記されているように、「神を愛し、隣人を自分のように愛すること」を意味します。こうした「隣人愛」は、今年で設立 138 年目を迎える女学院の歩みを表すものであって、世界を舞台にこの言葉に基づいての様々な「かかわり」と「交わり」を通じて、共鳴と社会への貢献を成してきました。

このような「かかわり」と「交わり」は、良心（Conscience：共に知る）から生まれるものです。女学院においても、「他者を自分のように愛すること」を志す生徒たちの学びと歩みを通じて、女学院の良心が示されてきました。その学びと歩みの軸となるものが、砂本先生やゲーンズ先生から今日まで受け継がれている「隣人愛」なのです。

(聖書科 K. C)

